

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 文化的処方推進事業（R8分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 文化創造課 文化交流係 電話番号：058-272-1111 (内3128)

E-mail：c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 10,000 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	10,000	4,950	0	0	0	0	0	0	5,050
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

人口減少が進む中、2030年には国民の1/3が65歳以上となる超高齢社会を迎えると言われており、離職や身体的衰えなどから望まない孤独や社会的孤立、精神的貧困を抱える方が増加することで、疾患リスクや社会保障費の増大などが懸念される。こうした社会的課題に対して、欧米で推進されている社会的処方を援用し、文化やアートを通じて生活の質や健康増進を目指す取組が、東京藝術大学が主導し産学官で研究を進め、本県も参画している「文化的処方」の取組である。本県では令和6年度開催の国民文化祭実行委員会が開催準備を通じて、文化的処方の担い手である「文化リンクワーカー」の養成やイベント等での処方の実践を進め、令和7年度からは県事業として継続して取り組んでいる。しかし、現状では研究途上であることから、取組を継続的に展開し、認知度の向上と知見を蓄積することで、文化的処方の確立と社会実装時の円滑な導入が期待できる。

(2) 事業内容

(1) モデルエリア等での文化的処方の実践

市町村等とも連携し、文化的処方を実践する「モデルエリア」を設定。福祉施設や公民館、喫茶店等を事業との接点「タッチポイント」とし、処方の実践を推進。

(2) 文化リンクワーカーの充実

①文化リンクワーカー養成研修の改善

2カ年の蓄積を踏まえ、研修内容の効率化やより実践的な内容へカリキュラムを改善

②「文化的処方サポーター」の養成

文化的処方の実践活動を補助するボランティアとしてサポーターを養成

(3) 文化的処方の認知度向上

県内の文化イベント等においてブースを出展し、処方の実践と認知度向上を図るとともに、事例発表や公開講座の開催等、情報発信を推進。

(3) 県負担・補助率の考え方

地域未来交付金を活用し、国費（補助率 1 / 2）を充当する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	100	業務旅費
需用費	20	事務用消耗品
委託料 (業務委託)	9,880	文化的処方推進事業運営委託
合計	10,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略による位置づけ
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - (1) 地域の魅力・清流文化の創造・伝承・発信
 - ① 「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承・発信
- 第4期岐阜県障がい者総合支援プラン
 - ・障がい者の芸術文化活動の充実

(2) 事業主体及びその妥当性

近い将来、本県にも訪れる超高齢社会において懸念される望まない孤独や社会的孤立、精神的貧困といった社会課題に対する先導的な取組であり、県が主体的に行うことは妥当。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

東京藝術大学が主導し、2032年度を目途として国法人が採択した産学官連携の研究プロジェクトへの参画を通じて、望まない孤独や社会的孤立、精神的貧困に対応・活用できる文化的処方の研究開発、社会実装を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R7年度 実績	R8年度 目標	R9年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

文化的処方は研究開発の途上であり、研究終了後の円滑な導入を目指していることから、現時点で達成度を示す有効な指標がない。

（これまでの取組内容と成果）

令和5年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和6年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和7年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	<p>内閣府の全国調査では孤独感を感じる方は約4割で高止まり。望まない孤独や社会的孤立、精神的貧困の社会課題化も進んでおり、文化的処方への活用に向けた取組の推進意義は依然として大きい。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>県主催の大型イベントでの処方の実践や公開講座等を通じて、処方事例の蓄積や認知度の向上が継続的に図られている。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>養成研修の運営管理業務の外部委託やカリキュラムの改善等、効率的かつ効果的な事業実施を進めている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 文化リンクワーカーの人員確保とスキルの向上、養成研修カリキュラムの確立、文化的処方の認知度拡大と実践事例の蓄積、効果測定方法の確立。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 社会的な意義、また国法人採択の2032年度を目途とする研究プロジェクトへの参画を通じて、これまでに一定程度の文化リンクワーカーの養成や事業の認知を得ていることも踏まえながら、文化リンクワーカーの人数とスキルの充実、更なる認知度の向上を図り、社会実装に向けて引き続き取り組んでいく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	